

TOMINAGA 株式会社トミナガ

TEL.03-3806-1321 FAX.03-3806-1984
URL <http://www.tomi.co.jp>

代表者：代表取締役 富永 護
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里3-1-12
資本金：1,000万円
従業員：45人

創業年：昭和39年
業種：印刷関連業
事業内容：オフセット印刷(UV・厚紙)、オンデマンド印刷、UVインクジェット、レーザー加工



富永 護
代表取締役

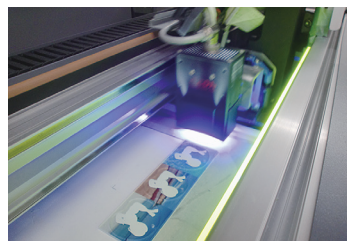
東日本大震災時の苦い体験が新規事業につながる

昭和39年に写真凸版製版工場として発足した。以来、製版事業で培った色再現技術を基盤に、DTP(デスクトッププリプレス=パソコンを使った製版)、オフセットカラーUV印刷(紫外線照射で硬化するUVインク使用の印刷)、オンデマンド印刷、UVインクジェット印刷などを次々と手がけて今日に至る。



工場外観

「東日本大震災の発生の3月は当社の書き入れ時にもかかわらず、地震後には仕事がぱたっと止まってしまい、それからしばらくは本当に大変だった」。2代目の富永代表取締役はあの平成23年をそう振り返る。大震災時の苦い経験から、従来の紙媒体への印刷事業のほか、もう一つの柱となる事業が必要だと判断。富永氏が新たに踏み出したのが、キャラクターグッズ事業である。この新事業では、UVプリンターやレーザー加工機を駆使して、アクリル板などに印刷→形状カッティング→袋詰めの一貫生産により、アニメ人気キャラクターのアクリル製3次元グッズなどを一貫生産する。



UVインクジェット印刷機

新事業を立ち上げて丸7年が経過した。その間にUVプリンターもレーザー加工機も当初の5倍に増設し、生産方法を見直すことで、当初は3,000個作るのに1か月を要したが今では1日ででき、売上も10倍以上に増えたという。令和3年10月に手狭となった専用工場も移設した。「おかげさまで、本業の紙媒体の印刷事業と新規のキャラクターグッズ事業のどちらも順調に推移している。昨年はコロナ禍のために赤字を覚悟したが、下期にキャラクターグッズ事業がこれまでにない売上増となり、何とか黒字になった。」と、富永氏は笑顔で近況を語る。富永氏の先見の明により、2つの事業がバランスの取れた企業経営に直結している。

回 主な保有設備

- 通常印刷部門
 - プリプレス：MAC編集機、自動検版機
 - 印刷：菊版半裁判UV5色機、同UV4色機、同油性4色機2台、オンデマンド印刷機、自動インク計量機
 - 製本：断裁機、6羽根BZ折機、自動計数機、筋押し機、角丸裁断機、カッティングプロッター1台
- キャラクターグッズ部門
 - フラットベットUVインクジェットプリンター 5台、
 - レーザー加工機5台 ・ ガーメントプリンター 2台

“うるさい注文”をこなし、リピーターをつくる

紙媒体への印刷事業は、デジタル化や紙離れが逆風となり、多くの同業他社が厳しい状況に置かれているのに、当社が順調な理由は何なのか…。富永氏は「“うるさい注文”にもきっちり対応することが評価され、仕事を依頼いただく。顧客の大半が何度も注文いただく常連客であることが、高評価の証し」と分析する。うるさい注文とは、厳密な色違いが要求される高級カタログなど。また、「今日の発注で明日の納品」といった超・短納期の案件も寄せられるが、それらの注文にも対応。都内自社工場に構築した編集→印刷→調整の一貫生産体制により、難度の高い仕事をこなし、常連客を増やし続けている。



UVオフセット5色機

令和4年前半には、多様な市場の印刷ニーズに応えるため、デジタル時代にふさわしい1億円超の最新のオフセット印刷機を導入し、更なる高品質化と生産性の向上により、売上増を図る。

前回東京五輪の開催年、昭和39年(1964年)に立ち上がった当社は、山あり谷ありの半世紀余りを乗り越えて、令和3年に2度目の東京五輪を迎えた。富永氏は「社員のみんなが長く働ける会社であることが第一で、そのために安定して利益を出し続けることが必要」と、思いを語る。

2本柱を確立し安定収益の基礎を築いた感もあるが、富永氏は「3年後の創立60周年に向け経営基盤をさらに強固にしたい。その先には100年企業への道筋も見えてくる」と先々を見据えている。

顧客の満足を表現する



好品質(Love Quality)、短納期(Quick Delivery)、都内工場(Tokyo Factory)ーが当社の強みだと捉えている。品質が高いだけの高品質ではなく、顧客それぞれの要求にぴったりフィットするのが「好品質」。印刷とは何かについて、単に情報を紙に載せるというより、「顧客の満足を紙メディアに表現するもの」と捉え、そうした観点から打ち出したのが好品質だ。

例えば、スピードを求める顧客には短納期で応えるのも好品質の一つ。都内に立地する自社工場での一貫生産や近隣の印刷/製本会社との協力・連携により、顧客の「すぐ欲しい」の要望にきっちり対応できていると自負している。